

ペルー 天候不順の中でブドウが最大の輸出果実に

[FreshFruitProtal](#) 2024年3月5日

世界最大の輸出入情報システムである[Fluctuante](#)(会員限定、スペイン語)によると、厳しい気象条件と困難な政治的規制に苦しんでいるにもかかわらず、ペルーの2023年の農産物輸出は前年比で2%増加した。

Fluctuanteのデイビッド・サンドバルCEOは、エルニーニョ現象による気温の上昇と農作物の収量の問題がある中で、緩やかな成長となったと述べている。

サンドバル氏は肯定的な点として、業界の雇用は4.4%増加し、雇用創出の歴史的な増加を見せたと述べた。この成長は、ブルーベリー、アボカド、ブドウ、アスパラガスの加工と輸出における労働力需要が牽引した。

2024年について、ペルー農業生産者協会(AGAP)のガブリエル・アマロ会長は、「農産物輸出部門の見通しは、大きく後退した2023年と同様の数字で終わる可能性があり、それほど明るいものではない」と述べた。

好ましくない規制

同会長は、ペルーの輸出は、労働者の権利に関する新しい農業法31110というさらに大きな課題に直面していると言い、「この規制は、農業の成長や地域への投資を奨励するものではなく、小規模家族経営の近代的な流通への統合を促進するものでもない。この状況は、農産物の輸出にとってリスクとなるだけでなく、農業全体に害を及ぼすものである。このような農業を阻害する法律ではなく、その活動を促進する法令が採用されれば、期待される成長はさらに大きくなる可能性がある」と述べた。

農業関連の雇用が増加したと報じられたのとは対照的に、アマロ会長は、この法律は2023年に農業分野での10万人以上の正規雇用の喪失に加担したと述べた。同会長は、2022年にはこの業界で40万人の雇用が失われたと述べ、この状況は競争力を損ない、収益と持続可能性に影響を与えていると付け加えた。

AGAPは、昨年農業収穫高は2.9%減少したと報告した。最も影響が大きかったマンゴーの生産は89.87%減少した。そのほか、生食用ブドウが11.98%、アスパラガスが7.20%、スイカが44%減少した。

主な輸出品

主な輸出果実はブドウで、輸出額(FOB)は前年比30%増の18億ドルとなり、輸出額が6%増の15億ドルであったブルーベリーはブドウに抜かされて2位となった。

3位はアボカドで、輸出額は前年比3%増の10億3,100万ドル、シェアは10%であった。これに続くのがマンゴーで、輸出額は前年比16%減の2億5,400万ドル、シェア3%、バナナは前年比6%減の1億1千万ドルでシェアは1%であった。

2023年の生食用ブドウの総輸出货量65万4千トンのうち、49%が米国向けで、次いでオランダ向けが11%、メキシコ向けが7%であった。

2番目に輸出货量の多いブルーベリーは20万7,595トンであった。主に米国(57%)、オランダ(22%)、中国(7%)の3市場に出荷された。

2023年に最も懸念された品目の1つはマンゴーで、輸出額が16%減少した。合計19万8,560トンが輸出され、そのうち米国向けが30%、オランダ向けが30%、スペイン向けが11%であった。